

事の始まりは、権藤千秋さん 『飛べ！ 赤い翼』出版

姉妹都市提携のきっかけに

「赤い翼：パリー東京」実行委員会 事務局長 渡辺 昌俊

ジャピー機遭難から60年後の1996年、アンドレ・ジャピーの生地・ボークールと遭難現場の佐賀県脊振村（現・神崎市）が友好姉妹都市協定を結びました。きっかけとなったのは、佐賀市在住の児童文学者・権藤千秋さんの『飛べ！ 赤い翼』（91年、小峰書店）の出版です（図1）。

5年かけて取材、仏訳されて副読本に

結婚を機に佐賀に移り住んだ権藤さんは、幼いころ脊振村にいたという友人からジャピーのことを初めて聞き、興味をそそられました。山で炭焼きをしていて救助に駆けつけた人たちや、治療に当たった日赤診療所の牛島繁人医師らの話を取材し、垂直尾翼などが地元で大切に保管されていることも知りました。たった一人で100時間飛行に挑戦したジャピーの冒険心と、濃い霧の山中で長時間搜索を続けた村人たちの勇気と行動力。ジャピー救出の物語が地元の人たちに代々語り継がれていることにも、深い感銘を覚えたといいます。

関係者の取材に5年の歳月をかけ、小学生向けのノンフィクションにまとめたのが、『飛べ！ 赤い翼』です。フランス側にも届けられ、日仏友好を促す契機になりました。96年10月、ボークール町長（当時）らが来日、ジャピー機遭難60周年記念行事に参加し、姉妹都市提携に署名したのです。

地元の中学校や今はない小学校の分校で毎年、ジャピー救出劇が演じられるようになったのも、この本の出版がきっかけです。のちにフランス語に翻訳され、ボークールの子どもたちの副読本になりました。市内の全小学校に配布され、今でも教材として使われています（図2）。

朗読劇が草の根交流に弾み

脊振村は2006年の町村合併で神崎市になります。やや低調になっていた交流事業に弾みつけたのは、青木裕子さん（元NHKアナウンサー）らによる朗読劇「アンドレの翼」の上演です。13年のパリとボークール公演は反響を呼び、翌年には神崎市など全国11か所で上演されました。

くしくも「アンドレの翼」公演を助成したのが、当時、私（渡辺）が理事を務めていた笹川日仏財団でした。申請書を一読して、私は旧知のニコラ・ジャピー

（のちにコードロン・シムーン復元協会副会長）から聞いていた大叔父アンドレの物語を思い出しました。青木さん、私、ニコラの3人が一つにつながった瞬間です。

ニコラは翌14年11月、私の案内で、日仏自治体交流会議のため来日していたボークール市代表团に合流して神崎市を初めて訪問。ジャピー機遭難の記念碑の前にひざまずいて祈る彼の姿は忘れられない光景です。16年に再訪、地元の熱意に答えて「ジャピーは100時間以内を目指したから、遭難から100年までに実現させたい」と、日本で復元機を飛ばす決意のうちを語りました。



図1 『飛べ！ 赤い翼』



図2 ボークール市の小学校を訪れた権藤千秋さん（中央）。子どもたちは仏訳された『飛べ！ 赤い翼』を読んでいるという（2019年5月）



図3 馬場憲治さんの工場敷地内に建てられたエッフェル塔。フランス側関係者もよく訪れる



図4 日本橋高島屋S.C.でのトークショー。青木裕子さんの司会で高樹のぶ子さん、クリスチャン・ボラックさんが対談した（2024年9月）

実行委員に多彩な顔触れ、元県知事や元最高裁判事、芥川賞作家も

こうした幾つもの動きが一つになり、21年11月、「赤い翼」実行委員会が発足しました。30人近い実行委員には、佐賀・九州関係者が少なくありません。元佐賀県知事で衆院議員の古川康さんは現在、国土交通省の副大臣。神埼市の馬場憲治さんは自社工場敷地内に実物の1/16のエッフェル塔を建造し、「日仏の絆、アンドレ・ジャビエ氏に捧ぐ」と記すほどの心酔ぶりです（図3）。『オリオン飛行』（講談社）を発表した福岡在住の作家・高樹のぶ子さん、元九大客員教授で最高裁判事を務めた櫻井龍子さん、今年100歳になる権藤さんも実行委員の一人です。

コロナ禍が落ち着いてきた23年4月、復元協

会幹部が来日し、東京と佐賀市で計画の概要について記者発表。在日フランス大使館の後援が決まり、23年、24年にフランス航空宇宙軍と航空自衛隊の共同訓練が行われた際には、所沢航空発祥記念館などでパネル展示をしました。24年9月には日本橋高島屋S.C.のフランス展でトークショー（図4）や展示を通じてアピールしました。また、復元機の飛行許可申請手続きに備えて、パスファインダー社（室屋義秀社長）とコンサルティング契約をかわし準備を進めています。

計画実現までのハードルは幾つもあります。機体の輸送や国内での飛行には費用がかかります。実行委員会ではクラウドファンディングを計画中です。皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げる次第です。（取材協力 鈴木明治）



赤い翼HP

「赤い翼：パリー東京」実行委員会

最高顧問	木寺 昌人	（元駐仏日本大使）	実行委員	飯沼 成昭	（飯沼飛行士記念館）
会長	鈴木 真二	（東京大学名誉教授）		刈田 重賀	（日本航空協会 航空遺産継承基金事務局 専任部長）
副会長	クリスチャン・ボラック	（（株）セリク代表取締役社長）		木村 ジュニー	（アンドレ・ジャビエ親族）
	青木 裕子	（軽井沢朗読館館長）		木村 勇気	（北海道大学教授 アンドレ・ジャビエ親族）
執行委員	柳沢 光二	（航空ジャーナリスト協会常任理事）		溝上 員章	（（株）日本エーピーアイ代表取締役社長）
	吉田 正克	（日本学生航空連盟 前専務理事）		中村 雅史	（九州大病院長）
事務局長	渡辺 昌俊	（笹川日仏財団名誉理事）		中野 幸紀	（元関西学院大学教授）
監事	荒山 彰久	（航空史家）		岡 真理子	（元パリ日本文化会館副館長）
	鈴木 明治	（元朝日新聞社航空部長）		岡山 慶子	（（株）朝日エル会長）
実行委員	足立 純子	（HEC Paris 日本事務所代表）		佐賀日仏協会	（代表 八谷まち子会長）
（ABC順）	馬場 憲治	（（有）馬場ボディ代表取締役社長）		櫻井 龍子	（元最高裁判所判事）
	深尾 精一	（東京都立大学名誉教授）		實松 尊徳	（神埼市長）
	福岡日仏協会	（代表 南島広治代表理事）		下平 幸二	（元航空自衛隊 空将）
	藤野 満	（航空ジャーナリスト協会会員）		高樹 のぶ子	（作家）
	古川 康	（国土交通省副大臣）		田中 孝文	（朝日新聞社航空部長）
	権藤 千秋	（児童文学者）		戸谷 俊介	（（株）プロドローン 代表取締役社長）
	羽中田 実	（航空宇宙工業会国際部長）		山川 秀宏	（豊富産業（株）航空機リサイクル事業部長）
	平田 英俊	（元航空自衛隊 空将）		吉川 邦夫	（演出家）
	飯村 佳之	（音響効果演出家）			

（2025年5月26日現在）